

栗原の稲作通信

令和3年第5号 令和3年7月13日発行

宮城県栗原農業改良普及センター

宮城県米づくり推進栗原地方本部

電話番号 0228-22-9404

今後の栽培管理のポイント

- 葉いもちの初発が平年より早く確認されました。ほ場を入念に見回り、病斑を確認したら直ちに防除しましょう！（病害虫防除所・注意報第1号）
- 出穂の25～10日前に低温*が予想される場合は深水管理としましょう。
*平均気温20℃以下 または 最低気温17℃以下
- 草刈りは、出穂10日前まで（遅くとも7月25日頃）までに終わらしましょう。
- 今後、葉色の低下が見込まれるので、品種や生育量に応じた追肥をしましょう。

●気象経過

- ・6月下旬は気温が低く、降水量と日照時間は少なくなりました。7月上旬は気温が低く、降水量は多く、日照時間は少なくなりました。

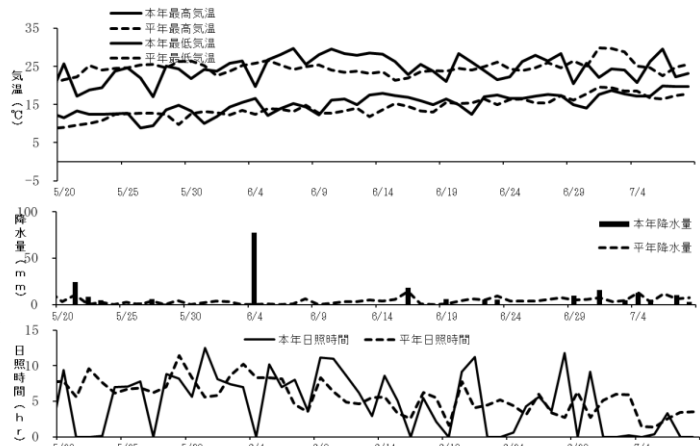
東北地方1か月予報 予報期間：7/10～8/9
令和3年7月8日仙台管区气象台発表抜粋

予報のポイント

期間の前半を中心に暖かい空気が流れ込みやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。

予想される向こう1か月の天候

気温：高い 見込み
降水量：ほぼ平年並 の見込み
日照時間：ほぼ平年並 の見込み



気象経過（アメダス築館）*点線は過去5か年平均

●生育調査ほ（移植）生育状況（7/9現在）

- ・ひとめぼれでは、草丈及び莖数は平年並、葉数は平年より少なく、葉色は平年より淡くなっています。
- ・一迫ひとめぼれは幼穂形成期に達し、築館ひとめぼれはまもなく減数分裂期に達するものとみられ、生育は順調に進んでいます。

表1 生育調査ほ調査結果（7/9現在）

品種	地区	田植日 本年	草丈(cm)		莖数(本/m ²)			葉数(枚)			葉色(GM値)			幼穂長(mm)			
			本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年比 (%)	平年比 (%)	本年	前年差 (枚)	平年差 (枚)	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
ひとめぼれ	築館	5/9	65	100	103	596	124	104	10.4	-0.9	-0.9	36.5	-6.5	-3.2	19.1	9.9	8.9
ひとめぼれ	若柳	5/19	61	91	95	677	97	94	10.3	-0.3	-0.6	39.4	-6.2	-3.2	1.0	-0.1	-0.2
ひとめぼれ	一迫	5/8	57	96	-	467	112	-	10.1	-1.3	-	39.3	-3.7	-	3.2	1.2	-
ひとめぼれ	管内平均	5/12	61	96	-	580	109	-	10.3	-0.8	-	38.4	-5.5	-	7.8	3.7	-
ひとめぼれ	古川農試	5/10	64	118	111	635	123	108	10.4	0.4	0.3	38.4	-0.4	-2.2	1.9	0.8	0.0
ひとめぼれ	県平均	-	61	99	101	528	101	95	-	-	-	39.5	-1.5	-0.8	-	-	-
つや姫	築館	5/24	58	98	98	495	106	93	10.5	0.1	0.0	44.6	-1.4	-0.1	-	-	-
だて正夢	築館	5/20	64	88	-	502	95	-	10.1	-0.2	-	40.4	-6.8	-	-	-	-
萌えみのり	金成	5/13	65	92	102	563	100	109	11.3	-0.2	0.2	48.2	-2.6	1.9	1.5	-0.6	-0.4

注1:平年値は過去5か年平均。

注2:一迫ひとめぼれ、築館だて正夢は令和2年から調査農家変更のため平年値はなし。

注3:ひとめぼれ管内平均は築館、若柳、一迫3か所の平均値。

注4:ひとめぼれ県平均は、県内各普及センター生育調査ほ+古川農業試験場作況試験ほ（5/1,5/20移植除く）の平均値。

●直播展示ほの生育状況（7/9現在）

- ・草丈は前年より短く、茎数は前年より少なく、葉数は前年を下回っています。

表2 直播展示ほ調査結果（7/9現在） ＊ベンモリ湛水直播（点播）

品 種	播種日		草丈(cm)		茎数(本/m)		葉数(枚)		葉色(GM値)	
	本年	前年差	本年	前年比(%)	本年	前年比(%)	本年	前年差	本年	前年差
萌えみのり	5月11日	3日遅	44	87	471	79	8.5	-1.1	39.8	-0.9

■今後の管理

●生育ステージの把握 ～ ほ場毎に幼穂長を確認して生育ステージを把握しましょう～

表3 幼穂形成期と減数分裂期の目安

生育ステージ	幼穂長	葉耳間長	出穂前日数
幼穂形成期	1～2mm	—	25日
減数分裂期	3～12cm	-10～0cm	10～15日

●水管理 ～ 低温時は深水にしましょう～

- ・基本的な水管理は、以下のとおりです。

中干し ▶ 間断かんがい(穂ばらみ期) ▶ 浅水(出穂・開花) ▶ 間断かんがい(開花期)

- ・中干しは、幼穂形成期までに終了しましょう。

＊中生品種は多くのほ場で幼穂形成期に達していると考えられます。

- ・倒伏の心配のある水田では、出穂前まで飽水管理（足跡の水がなくなったら極浅めに入水し、土を湿った状態に保つ）を行い、根の健全化を図りましょう。
- ・幼穂形成期～減数分裂期に低温*が予想される場合は、深水にして幼穂を保護しましょう。

＊平均気温が20℃以下、または最低気温17℃以下が続く場合

●追肥 ～ 極端な葉色低下を避けるため追肥を行いましょう～

- ・極端な葉色低下により玄米品質が低下するので、品種毎に適切な追肥を行いましょう。
- ・有機入り肥料を追肥に使う場合は、肥効が現れるまで時間がかかるので早めに施用しましょう。
- ・一発型肥料を基肥に使用した場合でも、例年葉色が低下しているほ場では追肥を行いましょう。

表4 追肥時期の生育量と追肥量の目安 ＊生育量が目安の範囲内～下回る場合に追肥が可能です

品 種	幼穂形成期（幼穂長1～2mm）			減数分裂期（幼穂長3～12cm）		
	茎数 (本/m ²)	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)	茎数 (本/m ²)	葉色 (葉緑素計)	追肥量 (窒素成分) (/10a)
ひとめぼれ	470～530	38～40	1kg	450～500	35～37	1kg
ササニシキ	—	—	—	550～580	32～34	1～1.5kg
つや姫	550～580	35～37	2kg	—	—	—
まなむすめ	580～600	35～37	2kg	—	—	—

★だて正夢の追肥量（窒素成分量/10a）

- ・基本は「減数分裂期2kg」
- ・茎数が不足する場合は、
「幼穂形成期1kg＋減数分裂期1kg」

表5 だて正夢の生育量の目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈 (cm)	64～70	76～82
茎数 (本/m ²)	390～460	380～420
葉色 (葉緑素計)	40～42	37～39

- ・だて正夢はひとめぼれ等の他品種より茎数が少なく、葉色が濃くなる傾向にありますが、生育量が表の目安を超えている場合を除いて、追肥を行いましょう。

★金のいぶきの追肥量（窒素成分量/10a）

- ・基本は「幼穂形成期1kg+減数分裂期1kg」
- ・金のいぶきの葉色は、ひとめぼれと比較して葉色が淡く推移し、幼穂形成期から減数分裂期にかけて、著しく低下します。安定した収量を確保するために、追肥を実施しましょう。

表6 金のいぶきの生育量の目安

項目	幼穂形成期	減数分裂期
草丈 (cm)	65~70	80~85
茎数 (本/m ²)	570~620	490~540
葉色 (葉緑素計)	33~35	30~32

●病害虫防除

～葉いもち、イナゴ類の発生に注意しましょう～ ～草刈りを出穂10日前までに終わらしましょう～

*発生量および発生時期は、発生予報第4号（宮城県病害虫防除所・6/25発行）に基づいています。

▶葉いもち …発生量「やや多」発生時期「7月第2半旬(やや早い)」の予報

- ・病害虫防除所から7月9日に注意報第1号（葉いもち）が発表されています。葉いもちの初発が平年より早く確認されました。ほ場を入念に見回り、病斑を確認したら直ちに防除しましょう！
- ・特に、萌えみのり、金のいぶきなどのいもち病に弱い品種や、予防防除を行っていない直播栽培などでは注意しましょう。
- ・葉いもちが確認された場合は防除しましょう。特に、穂いもちの伝染源となる上位葉での感染には注意が必要です。

▶紋枯病 …発生量「やや多」の予報

- ・要防除水準を超えた場合は、穂ばらみ期から穂揃期に防除を行いましょう。
要防除水準：穂ばらみ期の発病株率 ひとめぼれ18% ササニシキ10%
- ・高温多湿で発生しやすく、前年多発したほ場では、注意が必要です。

▶稲こうじ病 …発生量「平年並」の予報

- ・穂ばらみ期に低温で降雨日数が多いと発生しやすくなります。
- ・銅剤による防除適期は、出穂10～20日前です。

▶斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）・発生量「平年並」発生時期「7月第3半旬(やや早い)」の予報

- ・畦畔の草刈りや牧草の刈取りは、出穂の10日前（遅くとも7月25日頃）までには終わらせましょう。出穂直前の草刈りは、斑点米カメムシを水田に追い込むことになるので避けましょう。
- ・薬剤防除は「穂揃期+その7～10日後」の2回防除が基本です。
イヌホタルイやノビエが発生している場合は、1回目の薬剤散布を出穂始期に早めましょう。

▶イナゴ類（コバネイナゴ）…発生量「やや多」発生時期「7月第2半旬(やや早い)」の予報

- ・コバネイナゴの発生が目立っています。
齢が進んだ個体には薬剤の効果低下するので、多発時は速やかに防除しましょう。

農薬危害防止運動実施中 実施期間 6月1日～8月31日

農薬の使用に当たっては、必ずラベルに記載された適用病害虫、使用方法、最終有効年限などを確認して、定められた方法を厳守しましょう。最新の農薬登録情報は、(独)農林水産消費安全技術センターのホームページで確認することができます。